

「あれ？おかしいな…。爺さんが教えてくれた道案内だと、もうとくに道が二股に分かれてもよさそうなのだが…。僕のお城は反対方向だから、この辺のことはよく分からないけど、さきから何か急に空気が変わったような気がするのよ、僕の気のせいかい？」その問いかけに「そう言えば、鳥の声が全く聞こえなくなっているわ」マジリアルは答えた。それと同時に2人は背筋に何かぞくぞくとするものが降りて来るのを感じた。

ウイザットは上体を後ろに反らし、手綱を持つ拳の動きを止め、それを軽く引いて馬の歩みを止めた。馬は少しの抵抗を見せ、首を軽く横に振ったが、その場で足踏みをして停止した。ウイザットは手綱を譲り、辺りに耳を澄ませる。

先程まで吹いていた心地良いそよ風も今は風となり、木の葉一枚揺らしてはなかった。馬が左右の耳をそれぞれ違う方向に向け、何かを聞き取ろうとしている。しかし静寂に支配された辺りからは何の音もして来なかった。

「どうやら僕達は迷ってしまったようだ」ポツリとウイザットが呟いた次の瞬間、鋭い閃光が走り、目の前の樹に耳を劈く轟音と共に何か落ちて来た、と同時に2人は強烈な眩暈に襲われ、意識が遠退いていった…

どろん、どろん、という地響きで、マジリアルは意識を取り戻したと同時に焦げるといふような差しに圧倒される。彼女は直射

日光が降り注ぐオープンスペースの椅子に、テーブルにうつ伏せる形で座っていた。余りの眩しさに視界がはきりしない中、マジリアルはやつこの想いでウイザットを探す。

人々が何かに歓喜の声を上げ、土埃が辺りを舞っている。遠くには海賊船と思しき船影が見える。「大丈夫かい…お嬢さん」マジリアルは耳元でウイザットの掠れた声が出た。



「ウイザット！」マジリアルは思わず彼にしがみついた。「私達どうしたの？ここは何処？」まだ焦点が合わない潤んだ瞳で、マジリアルはウイザットを見上げながらそう言った。

「分からない…僕達は…森の中を彷徨い、そして道に迷って…」ウイザットが記憶の糸を手繰り寄せると、「楽しんでいるかい？」ビールのボトル片手に騎士の様な姿の若者が、テーブルを挟んだ向かい側の椅子に腰を下ろしながら話し掛けてきた。

きよんとする2人。「今年は去年に比べて人が多いなあ。君達のそのコスチューム超イカシテいるぜい！レンタル？それともAmazon? e-Bay?」親指を立てる仕草をし、ビール臭い息を吐きながら、若者が続けた。

「レンタル？」「あまぞん？いーべい？」2人は鸚鵡のようにその言葉を繰り返した。

その時、またどろん、どろんという音がした為、ウイザットがマジリアルを庇う姿勢を取り、テーブルの下に潜ろうとすると、「何やってんだよ。あれは海賊ショーだよ。本物の大砲の訳ないじゃないか。ははははは」若者は豪快に笑った。

「海賊ショー？ここは海辺なのかい？」ウイザットがテーブルの下に潜るのを止めて問いかけると、「君達何処から来たの？」とウイザットの強い訛(アクセント)にその若者が反応した。「それより、ここは何処なんだろう？」ウイザットの更なる質問に、「ハア？君達ヤバイ葉でもやっているのかよ？ここはGran Oso Lakeだよ。今日はルネッサンス・フェアの日じゃないか。さて、俺はもつとビールでも飲むか？2人に余り関わらないほうが良いと判断した若者はそう言うて行ってしまった。

「湖？祭り？」「魔女ジニャーナの何かの儀式なのかしら」2人は未だ状況を掴めないでいたが、「あーデユナミスが居ない！」冷静さを取り戻したウイザットは愛馬の姿がないことにやっと気が付いた。

チャネリング相談

Q 私には仲よしグループがあり、その中で日本に帰国した際のお土産を毎回全員にくれる人と、全くくれない人がいます。細かいことは言いたくないですが、私は毎回くれる人には快く渡せるのですが、全くくれない人にまで渡すことに抵抗があります。けど、あなたくれないからあげないとも言えず…毎回くれる人は全くくれない人のことをどう思っているのか、何でお返しがないのに毎回全員にお土産を渡すのか。かと言って、くれる人にだけこっそり渡すのもなあと思い、疑問に思いながらも全員の分を用意してしまう私。この気持ちってセコイですか？ (Gardena 在住 Gさん)

A その疑問とお気持ちは至極当然のことだと思います。お返しがない相手にもお土産やギフトを用意する人には大まかに①自分に自信がないので、それを補う為になにかあげる(お返しがなくともあげる心の広さを示したい=良い人と思われたい)②純粋に自分の楽しい旅の思い出をお土産という形で分けてあげたい(愛の心)、という2種類に分けられると思います。

また、楽しい旅の思い出をシェアすると同時に良い人とも思われたい、というパターンもあるでしょうし、くれない人にはあげない心が狭い人、とグループ内で思われたくないというGさんのような心理もあるでしょう。

そのグループの毎回全員にくれる人の心理がどのタイプかは別として、例えそこでお返しなくても、誰かに何かをあげるというエネルギーは必ず何か別の形か別の人からか、それを出した人に戻ってくるという宇宙の法則は確かに存在しているということを知りましょう。

ただ、リターンを期待して出すエネルギーは純粋な愛ではないので、見返りは本来期待しないという真実の愛としてお土産を快く渡せれば最高ですね(^^)

注意: 魔女ともえが述べる内容はチャネリングによるひとつのサジェスチョンです。